仙台市博物館協議会会議録

1. 会議の年月日　令和 8 年 5 月 26 日(火)

2. 開会及び閉会の時刻　午後 3 時 00 分から午後 4 時 30 分まで

3. 出席委員の氏名(五十音順・敬称略)
籠橋俊光、佐治ゆかり、佐藤琴、佐藤淑子、高橋たくみ、伊達泰宗、長岡龍作、七海雅人、若生彩

4. 説明者の職及び氏名
館長＝渡邊忍、副館長＝樋口智之、庶務係長＝萱森よう子、学芸企画室長＝酒井昌一郎、
学芸普及室長＝水野沙織、学芸普及室指導主事＝永山達郎、学芸企画室総括主任＝佐々木徹、学芸企画室主任＝寺澤慎吾、学芸普及室主事＝大内直輝
学芸企画室総括主任・記録＝菅原美咲

5. 議題並びに議事の要旨
(1)会議録署名委員の選任
　会長と佐藤淑子委員とする。

(2)報告事項
①令和 7 年度事業報告
【ⅰ展示・公開】(学芸企画室長報告)
「資料1」の通り。常設展として年 4 回の展示替えをした。企画展・特別展について新たに支出・収入を記載した。

【ⅱ:教育・普及事業】(学芸普及室長報告)
「資料 2」のとおり。特に図書館連携講座では、近年漫画やドラマ等に採用される転生といったテーマを設定し、親子や女性など多様な方々に参加いただいた。展覧会のない冬期に「わくわく！冬こそ博物館」という当館の冬ならではの魅力を発信するキャンペーンも初めて実施した。報道にも多く取り上げられた。この企画も含め来館経験の少ない層へ興味を持っていただけるよう講座のテーマやイベント内容を工夫した。

②令和 7～8 年度観覧者数について(庶務係長報告)
「資料 3」のとおり。令和 7 年度の観覧者数は 15 万 9,781 人で、前年度より 3 万 9,011 人増加した。主な要因は 9 月から 11 月の特別展によるもの。外国人来館者は推計で約 5,800 人。

③特別展「もしも猫展」の中間報告（学芸企画室長報告）
「資料 4」のとおり。解説文の内容はやや難しい部分もあるが、情報を段階的に提示することで、様々な方に対応できるよう工夫している。

④企画展「伊達政宗からの挑戦状～わがクイズに答えよ！」の進捗について（学芸企画室総括主任報告）
「資料 5」のとおり。展示では、当館キャラクターの言葉づかいなどに注意を払いながら適宜登場させ、遊びと学びの両立を図る。クイズの全問正解者には「伊達政宗ペーパースタンド」や「伊達政宗からの褒め言葉」を付与するなどの工夫をする。褒め言葉には実際の史料を引用したレア表現も入れる。
体験イベントは、政宗の誕生日が三日月だったことにちなみ、三日月の日に夜間イベントを実施する。武将隊と連携してみどころ解説・館内観覧を行うことで、展覧会の周知を図る。
広報のための動画制作を新規に試みる。

⑤特別展「仏画の力―東北　珠玉の仏教絵画―」の進捗について（学芸企画室主任報告）
「資料 6」のとおり。仏画は平和祈願や極楽往生など様々な力を求めて制作され、宗教的・芸術的価値を持つ。
※スライドによる主な出品予定資料の説明。

〔委員からの意見〕
① i について、各展覧会の収支が明確に示されており分かりやすい。今後は来館者数との関係で収入見込みの検討が課題になる。来館者目標もある一方で、「もしも猫展」のように、こどもの来館増などの来館者層の広がりのある企画も必要である。

〔事務局からの回答〕
収益性だけでなく文化的価値のある展示も重要と考えている。

〔委員からの意見〕
① ii について、歴ネットのクイズラリーの達成者数は把握しているか。
ミュージアムセミナーのオンデマンド研修 14 名と数は多くないが研修の機会を広く設けていることは多忙な教員向けにとてもよいので継続してほしい。

〔事務局からの回答〕
歴ネットのクイズラリーの達成者数は、3 館達成が 172 人、5 館達成が 92 人、全館達成 53 人である。5 館以上達成者にはプレミアム体験企画を抽選で実施した。本年度は休館施設があるので事業内容を今後検討する。

ミュージアムセミナーのオンデマンド研修は教員の負担軽減のため実施しており、今後も継続する予定である。教員を通じてこども達へ博物館の魅力を伝えていきたい。

ミュージアムセミナーのオンデマンド研修は本年度は 3 月に実施予定。教員からこども達へと広げていけるとよい。

〔委員からの意見〕

①ⅱについて、冬の新規企画での広報展開の結果に対し、来館者数の増加については効果が小さいように見えるがどのように評価するか。

オフシーズンの人の入れ方について、貞山運河シンポジウムを他施設で開催した際に全小学校に広報を行ったところ来場者数増となった。また、同テーマをある学校の課題とした。学校との連携を強化し、宿題化などで来館促進できるのではないか。

〔事務局からの回答〕

令和 7 年度は実験的に開催した。今回のデータを活かし、8 年度は学校連携も含めて考えていきたい。

〔委員からの意見〕

③「もしも猫展」について。猫展にちなんだ 22,222 人セレモニーなどをやってはどうか。SNS 発信を工夫すれば若年層への訴求になるのではないか。

〔事務局からの回答〕

実施の方向で検討中である。

〔委員からの意見〕

④について、クイズ賞品のおみくじ形式の褒め言葉のイメージはどのようなものか。工夫次第で魅力が高まる。集めたくなるような工夫をするとよい。インスタグラムの活用についてはどのように考えているか。

〔事務局からの回答〕

褒め言葉のデザインは工夫する予定である。SNS を通じた広報については、本企画では武将隊を通じた広報動画を作成予定であり、また X などでの展開を行う。

〔委員からの意見〕

④ショート動画の活用について、仙台市の子育て世帯で発信力のあるインフルエンサーなどに発信の協力を依頼するなどの方法もあるのではないか。

〔事務局からの回答〕
作成したショート動画制作の展開、媒体選定は今後検討する。

〔委員からの意見〕
④チラシのデザインが古く、工夫がほしい。

〔委員からの意見〕
⑤について、展示資料・企画趣旨とも素晴らしく、実際に見ることができないものを一堂にみることができるまたとない機会だと思う。資料への配慮もしつつ、照度やキャプションの文字の大きさ、フォントなど見やすさへの配慮が必要だと思う。

〔事務局からの回答〕
LED 照明を駆使し、資料を落ち着いて見られる空間づくりに努める。

〔委員からの意見〕
④絵をじっくりみることでわかることを伝えるなど、ただ眺めて終わらないような解説の工夫がほしい。その際、親がこどもに説明しやすいものがあるとよい。

〔事務局からの回答〕
ナビゲートできるパネルやキャプションを用意したい。

(3)協議事項
①令和 8 年度事業計画
ⅰ 展示・公開 (学芸企画室長報告)
「資料 7」のとおり。

ⅱ 教育・普及事業(学芸普及室長報告)
「資料 8」のとおり。

②特別展「氷河期展～人類が見た 4 万年前の世界～」(学芸普及室主事報告)
「資料 9」のとおり。

〔委員からの意見〕
②新たな客層を呼び込む機会となる。人類進化の理解を促す展示を期待する。物販や関連書籍の充実も学びの深化が期待できるため検討してほしい。

〔委員からの意見〕
②仙台の氷河期時代を展示公開している地底の森ミュージアムとの連携について、氷河期展の時期は閉館しているが、出張展示などを検討しているか。

〔事務局からの回答〕
巡回展として大型動物模型、ネアンデルタール人やクロマニョン人資料等の展示とともに、地底の森ミュージアムから遺物等を借用して、同時期の仙台の様子を紹介できるよう検討している。

〔委員会から意見〕
②同展開催時期の 3 月は東日本大震災に関わる時期でもある。仏画や仏像の展示など被災地に向けた心を静める展示もあってもよいと思う。

〔事務局からの回答〕
展示資料としてこれが心を静めるものとおすすめすることは難しいが、心が落ち着ける場所としての空間づくりを継続していきたい。

5 その他
(1)仙台市博物館の博物館登録と基本的運営方針について(副館長説明)
博物館法改正に伴い再登録が必要であり 8 年度中の登録を目指したい。基本的運営方針(収集・保管・展示・調査)が登録申請にあたって必要であり、8 月に案を提示する予定である。

(2)第 2 回定例会開催日程について(副館長説明)
「資料 10」のとおり。